

家畜衛生だより

R6-9 令和6年6月発行

置賜家畜保健衛生所
置賜家畜衛生指導協会
〒999-2232 南陽市三間通 444
0238-43-3217

暑熱対策をしっかりと行いましょう！

今夏も猛暑になることが懸念されます。
暑熱対策をしっかりと行い、今年も夏を乗り切りましょう！

27℃以上は要注意



- ・鶏は舎内温度が 27℃ を超えると暑熱ストレスを受けます。
- ・食欲が低下し、肉用鶏では増体・産肉性が低下、採卵鶏では採卵数・卵質が低下します。
- ・梅雨明け直後、梅雨の中休みなどで、急激に気温が上昇した時期に発生しやすいです。

☆主な症状

- ・激しい連続的な開口呼吸(初期)
- ・体が異常に熱い(体表で40℃前後、直腸で43℃以上)
- ・食欲低下、多量の飲水
- ・ぐったりして動かない、斃死

☆緊急時の対策 (35℃を超えたら)

- ・飼料・飲水(重曹を0.5~0.7%混合する)
- ・送風(最大限)で鶏体を冷却する

暑熱の影響は秋以降まで続きます

大切な家畜の夏バテ防止のために、再確認してみませんか？

畜舎環境整備

○鶏舎の暑さ・湿度対策

- ・ 換気扇・送風ダクトで鶏舎内を強制的に換気し、体感温度と湿度を下げる
- ・ 寒冷紗・カーテンを使用し直射日光をさえぎる
- ・ 屋根への散水や、断熱塗料または石灰を塗布し屋根の温度上昇を防ぐ



＜群馬県の採卵鶏農場＞

- 雑草のアカザを移植したグリーンカーテン。
- アカザは成長が早く、夏期には日陰ができる。
- 鶏舎の風通しのため、下部の枝や葉は切る。
- 実施前に比べ夏の死亡羽数が激減。

○鶏自体への対策

- ・ 体に噴霧することで気化熱と送風で体感温度を下げる
- ・ 密飼いをさける

飼養管理

○ 昼間絶食・夜間給餌…涼しい時間帯に給餌する

日中の高温時の給餌は、飼料摂取による体内発熱量の増加を招くため、避ける

○ 良質の冷たい飲み水をいつでも飲めるようにする

鶏舎構造によりますが、ピックだけの給水ではなく、例えば水トイも設置し、水を流すなど、いつでも冷たい水を十分に飲めるようにしてください

**暑熱による死亡事故が起きてしまった場合、
下記の連絡先（置賜家畜保健衛生所）まで
御連絡をお願いします！**

家畜に異状を認めた場合は家畜保健衛生所に直ちに通報願います！

0238-43-3217 または 080-1840-0705

(24 時間対応)